

寺宝

封内名跡志に「珍藏九品あり」とあり、東方大肝入菊池二石衛門が真山（寺社奉行）宛の古文書にも記述はあるものの、今は一つもない。



21 青篠山守林寺

〔曹洞宗〕

（玉里字青篠）

本寺 瑞徳寺
開山 大永元年（一五二二）瑞徳寺
本尊 第五世照庵良棟大和尚
檀家数 四八戸
住職 第二八世 松森 法隆和尚
寺宝 釈迦如来座像

胎内銘

「願主侍寺女大、作者 守正 永祿二年（一五五九）四月廿辰」

脇仏

地藏尊立像

胎内銘

「応永三十三年（一四二六）丙午四月二六日」

浄心浄林清水導人
仏師永賢 花押」

宝篋印形の塔二基は青篠城主菊池右馬之允の墓といわれている。



22 玉宝山正光寺

〔曹洞宗〕

（玉里字高間ヶ岡）

本寺 永徳寺

開山

寺伝では永正年間（一五〇四～一五二二）金ヶ崎永徳寺の開山、道叟道愛五哲の一人、孤山円成和尚を勧請し、碩眼智頑大和尚開創と伝えられている。

本尊

釈迦牟尼佛

檀家数

一〇〇戸

住職

加藤 隆喜和尚（西念寺住職）

由緒

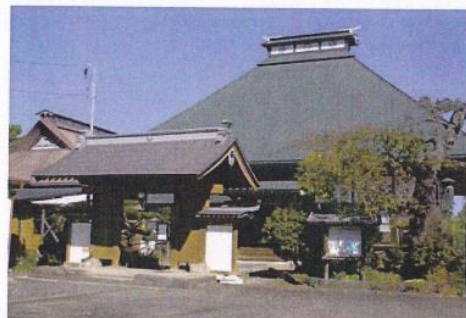
年代は、明らかでないが寺の裏山の崩壊により、伽藍の一切を失い、再建された堂宇も明治一九年（一八八六）の火災に遭い、記録もなく詳細を知ることができない。日本堂は明治末期に修験の道場を移築したもので老朽したため、昭和六三年（一九八八）檀信徒の努力により現本堂が落慶した。



23 玉香山信行寺

〔浄土真宗〕

本願寺派
（玉里字下上野）



本山

本願寺

本尊

阿弥陀如来

開山由緒

玉里の四日市場の菊池勇右衛門は仙台市北山の称念寺住職に帰依し、江刺郡にも広く法義を聞かせようと、同信者の協力を得、明治一六年（一八八三）自宅に近い現在地に、説教所を新設し、本願寺の仙台別院に請い、胆沢郡若柳村の明善寺衆徒、千田賢誠教導職を常任として布教にあたらせた。明治二〇年（一八八七）、京都府綴喜郡

26 人首川

〔ひとしかべ〕

北上山地に源を発して米里を流れくんだり、大和田から玉崎まで、玉里の中心を東から西へと流れる川である。人首荒町揚げ場（樋茂井堰頭首工）を始め幾多の頭首工からの用水路により、地域経済の根源である稲作や、他産業に多大な恩恵を与える、母なる川である。



27 樋茂井堰

〔ひとしかべ〕

人首荒町揚げ場から人首町内を通り、人首川左岸一帯を潤して玉里四日市場で中堰と合流し、人首川に注ぐ水路。慶長二年（一六〇六）、伊達政宗の命により、人首邑主沼辺重仲が開鑿したと



穴山隧道

樋茂井堰開削の際に、長倉沢を通る盛街道の地下を掘り、開通した隧道。内部には丸礫を積み上げた石壁が現存し、中程で曲折している。全長六〇㍎。

宝鏡院跡

伊達政宗の命により着工された樋茂井堰の開削工事は難航していた。そのころ、

への道。その昔は、松並木の街道であったといわれる。

距離を示す道標

〔一里塚〕高杉塚（玉崎）

〔七里塚〕御免

分かれ道を示す道標

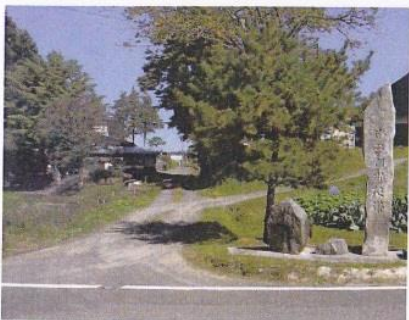
〔追分石〕次丸中島：野手崎道との分れ

25 梁川街道

〔旧野手崎街道の一部〕

伊達藩と南部藩を結ぶ大事な道路。

次丸北部の白一本杉の前を通り、茅野を抜けて土手の内うしろを東へ進み、大森観音前から牛安沢、新田後ろ、小菅生後ろから、菅生、栗生沢、野手崎への道。松街道の名もあった。



田辺村の信行寺を移転して、千田賢誠を開基とし、菊池勇右衛門の嫡孫諦順二世となり、以下世襲三世順誠。住職 菊池 諦子四世 寺宝 京都信行寺より伝えられたといわれる、聖徳太子御影像及び七高僧御影像。

24 人首街道

〔ひとしかべ〕

〔盛街道〕



江戸時代からの大事な道路、岩谷堂増沢の高杉坂を上り高杉塚、玉崎神社の石鳥居の前と蛤坂を下って木ノ下屋敷前から人首川沿いに上り、次丸中島橋を渡って、樋茂井野を通り猪ノ鼻、宝鏡院坂を下り地藏尊前、樋茂井堰の穴山隧道の上を通り馬馳向かいから米里兎和田、人首